

1. きれいな海岸を残しておきたい
2. 土木教育への認識
3. 道路は新しい景観をつくる



1. 近年、白砂青松の美しい海岸が、次第に姿を消しつつあることは淋しいことである。

夏の海水浴場の大混雑は、何も大都会の周辺部に限ったことではない。海水浴人口の増加もさることながら、臨海工業地帯の埋立や干拓によって砂浜がつぶされてゆく一方、わずかに残っている天然海岸も、最近になって各地で浸食の傾向があらわれ、海水浴ができるような砂浜が次第に少なくなってきたことも大きな原因であろう。

砂浜の後退が海水浴に支障をおよぼす程度であればまだしも、汀線の後退によってその背後地は高潮や波浪の脅威に直接さらされることになり、台風や冬季風浪などによって、人家や田畑、および公共施設は大きな被害をこうむることになる。

このような場合、わが国では浸食対策事業として、海岸堤防や突堤などを設置するのが普通であるが、アメリカなどでは浸食されている海岸に直接砂を捨てることによって砂浜を維持する方法をとっている所があると聞いている。

前号の「予算制度」の中にもふれられていたようだが、わが国の現状では、砂を運んで捨てるような工法は、防災施設を新設または改築するいわゆる<永久構造物をつくる>ことにはならないので、公共事業の対象にはならないという考えかたが暗黙のうちに根強く存在している。

臨海部の埋立や海岸堤防の新設によって土地利用が高度化し、国民生産が上昇してゆくことはまことに結構なことではあるが、また反面、せっかくの美しい砂浜が次第に姿を消してゆくことは淋しい限りである。

浸食対策として、砂を運んで砂浜を維持してゆくような工法が、防災事業として実施され、海岸が美しい砂浜の姿のままでも保全されてゆくような方法はないものであろうか。 [J]

2. 土木学会大学土木教育委員会編の「土木技術者の活躍と大学土木教育」が出版されました。主に昭和28年新制大学発足以来の、大学土木教育のねらいと、教育内容の移りかわり、大学卒業後の技術者の仕事の内容との関係などについてとりまとめられており、土木技術者の量と質の拡充と、教育内容の刷新がさげばれている今日、まことに時宜にかなった出版であります。内容は豊富な資料にもとづき、きわめて要領よくまとめられており、大学教育にたざさわる人のみでなく、一般の土木技術者の方々にも、ぜひご一読をおすすめしたい。このようにまとめたものを短時日の間に仕上げられた委員の方々には、心からの敬意をささげるとともに、将来はさらに長い期間にわたる教育の変せんとか、大学教育の質的向上、教育方法の改善といった面で、同委員会のますますの発展を期待したいと思います。またこのような出版物を通じて、会員全体の土木教育に対する認識がますます高くなることは、大変よろこばしいことと思います。 [S]

3. 昨年10月3日はなやかに開業した別府～熊本～長崎を結ぶ九州横断道路は、ここに、開通満1年を迎えた。

この道路は、九州最大の観光地別府と阿蘇を直結するドライブウェイであるため、産業道路の影はきわめてうすく、観光道路的色彩が濃厚であり、加えてマイカー時代を反映して乗用車の急増したこともあって、利用する自動車のうち貨物自動車は、2%以下だという。

道路公団の調査によると、この1年間の通過台数は、約60万台であり、最高通過台数を記録した月は、さる8月で約9万台である。また道路を中心に観光ブームがわき起ったのは予想されたとおりで、その開発の規模は驚くべきものがあるという。九州の誇るこの大自然の開発と同時に保護についても今後十分考える必要があると思う。 [C]